

臨床看護師の研究能力を高めるための取り組み

教育研究推進WG

I. 主な活動内容

教育研究推進WGは、平成23年度より活動していたブロッサム教育研究推進ワーキングの継続プロジェクトとして、平成26年度から活動している。

1. 九州大学病院看護研究コース

平成24年度に開設し、研究の指導や研究に関する知識やスキルに関する研修を運営している。

2. 九州大学看護共創・実装研究拠点組織への協力

令和5年度より九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野の教員に協力し、実装研究の進捗状況を情報共有や「看護研究セミナー」の運営に携わっている。

3. 臨床看護研究発表会

看護研究の成果を発表し看護の質向上を図ることを目的として開催している。教育研究推進WGは、令和5年度より発表会の運営を実施しており、高度先進医療、急性期医療を担う大学病院の看護職員として研究的視点を持ち、複雑多様化する患者のニーズを捉えた看護実践に繋がられるように支援している。

4. キャリアステーション

平成25年6月より、研究に関する困りごとや大学院進学等の相談を行う窓口を開設した。教育研究推進WGは、大学院修了者や専門看護師が中心となり、相談員を担当している。構成員は、看護師長、専門看護師、大学院修了者、保健学部門看護学分野の教員等であり、原則第2金曜日(9時~17時)・第4金曜日(9時~16時)に行っている。



令和3年度 看護研究コース(基礎編)成果発表会



令和7年度 臨床看護研究発表会

II. 教育プログラムの実際

九州大学病院看護研究コース

平成24年度より、九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野の教員と協働し、「基礎編」と「実践編」を開講している(令和5年度より休講中)。

目的:

- ①看護研究の一連の流れを学習・体験し、研究方法の基礎を身につける
- ②研究的態度・科学的思考ができる能力を高める
- ③看護の現象に関し、研究的視点を持つことができる
- ④研究成果を学会や論文等で発表することができる

系統的に研究スキルを習得できる研修(表1)を実施すると共に発表会や学会などで発表が行えるよう指導を受けられる体制を構築した(図1、2)。

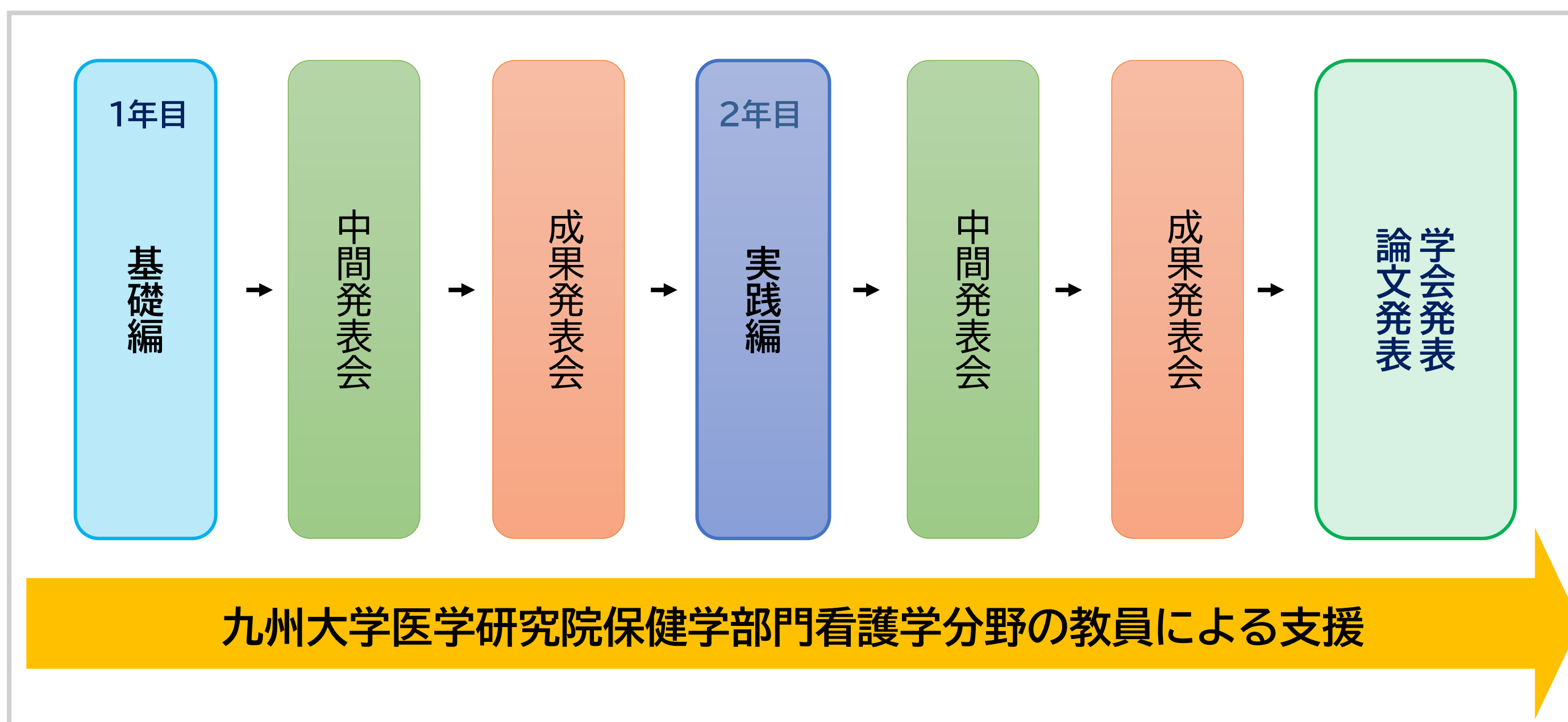


図1 看護研究コースの流れ

表1. 研究コースで行っている講義内容

基礎	看護研究の基礎:看護研究の課題設定や研究方法の決定など 文献検索の方法、整理法:データベースの活用 文献クリティーク演習
計画	研究計画書の書き方
方法	質的研究方法について 看護研究に用いられる統計:検定の基本など
その他	プレゼンテーションの基本スキル:スライド作成

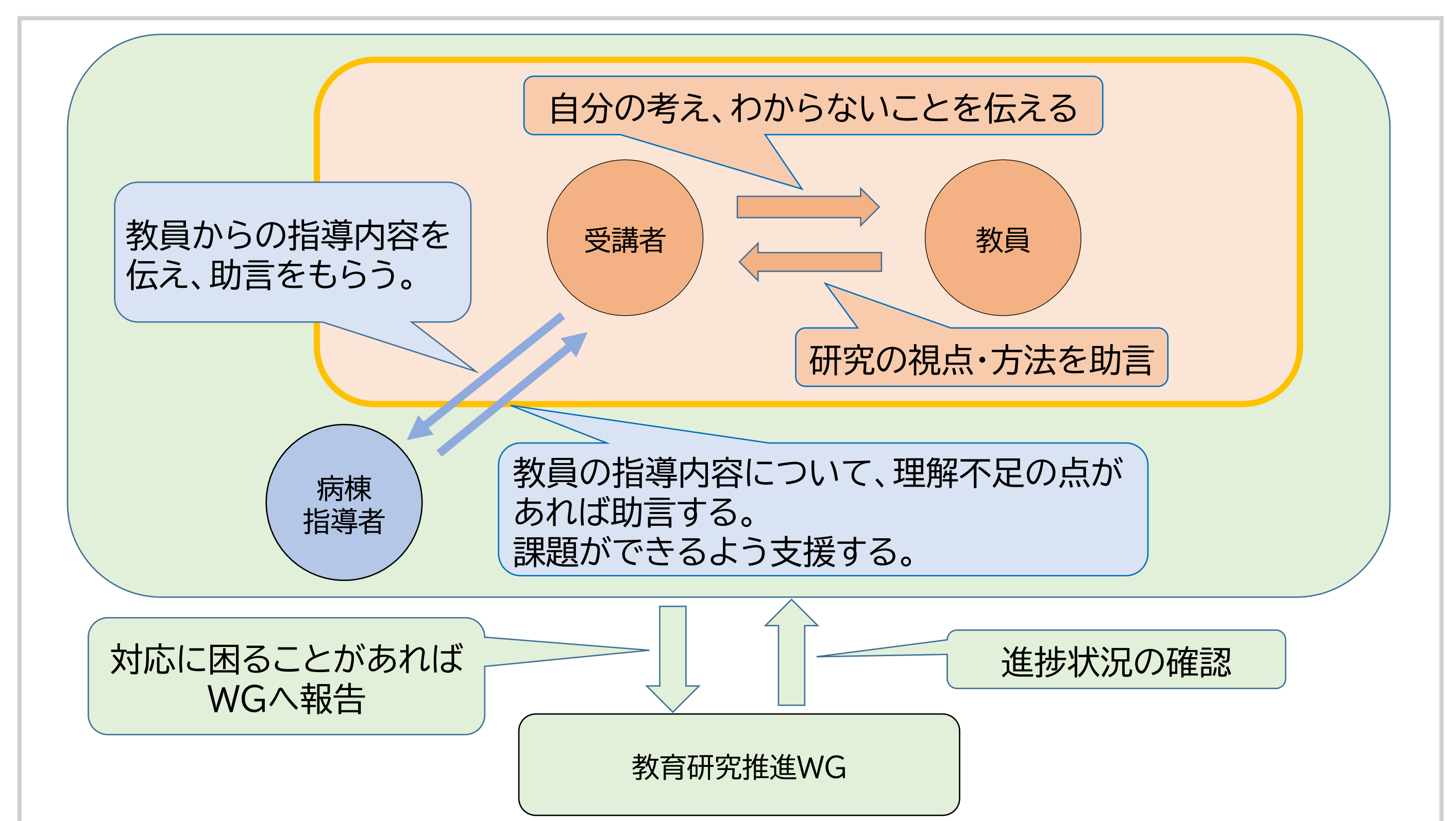


図2 看護研究コース 受講者支援体制

九州大学看護共創・実装研究拠点組織への協力

●実装研究

九州大学看護共創・実装研究拠点は、保健学部門看護学分野と看護部が連携し、外部機関や異分野との融合研究を通じ、イノベティブな看護の開発と社会実装を戦力的に推進することを目的に、2024年3月より本格始動した。

令和5年度より、九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野が主体で行っている九州大学看護共創・実装研究に病院の部署から数名ずつ選出し、協働で研究に取り組んでいる。

組織は、2部門・4ユニットで構成され、社会実装に向けたベストプラクティスの創出や、エビデンス・ベースド・ナーシング(EBN)の構築を目指している(図3)。

●看護研究セミナー

令和6年度より、「看護研究セミナー 基礎編 I・II」を保健学部門看護学分野の主導で企画・開催している。

目的: 看護研究の基礎知識習得し、臨床実践へ活用すること。

講師は、保健学部門看護学分野の教員であり、受講者は対面、オンライン、オンデマンドを選択できる(基礎編IIは対面のみ)。

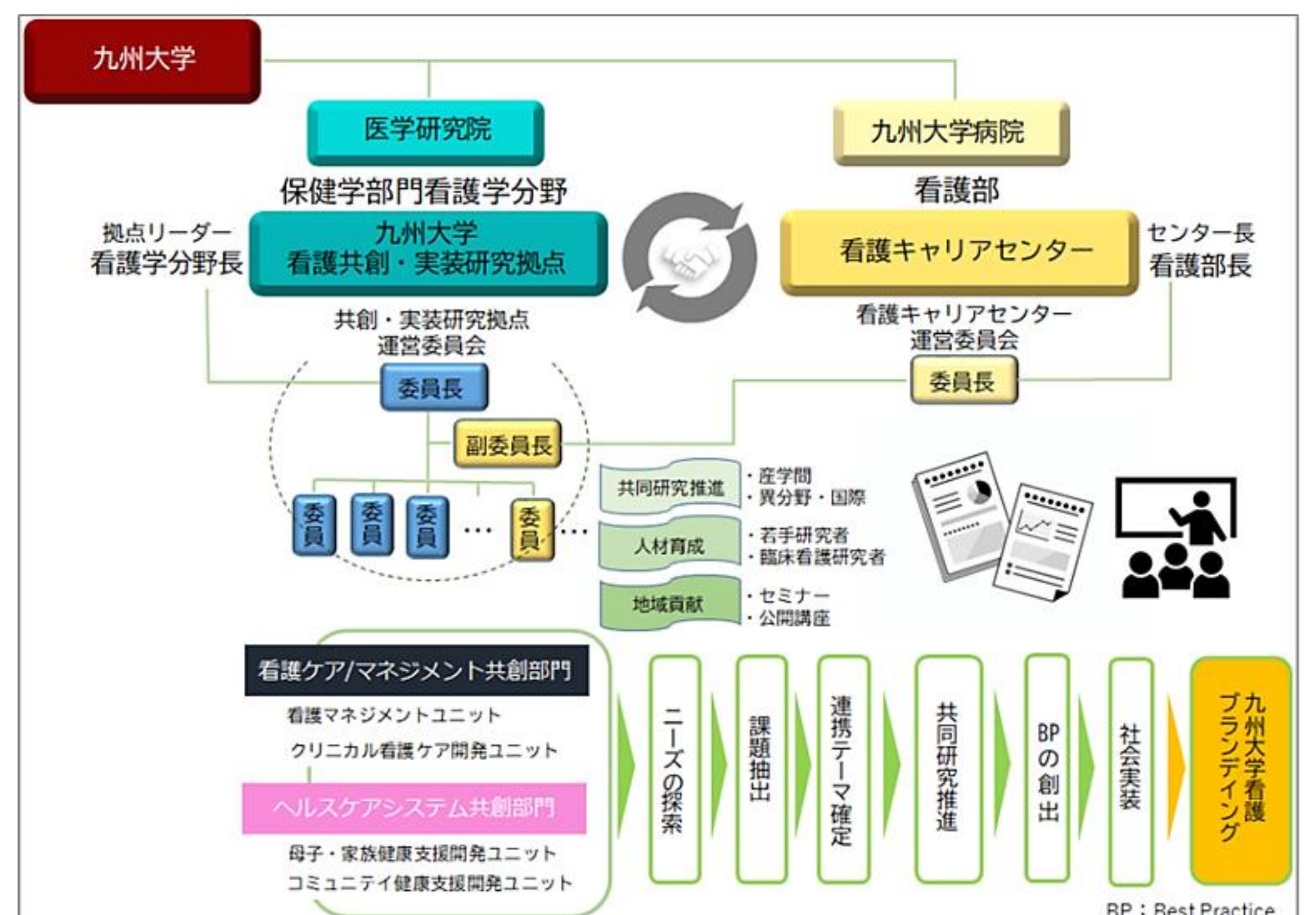


図3 九州大学看護共創・実装研究拠点の構成

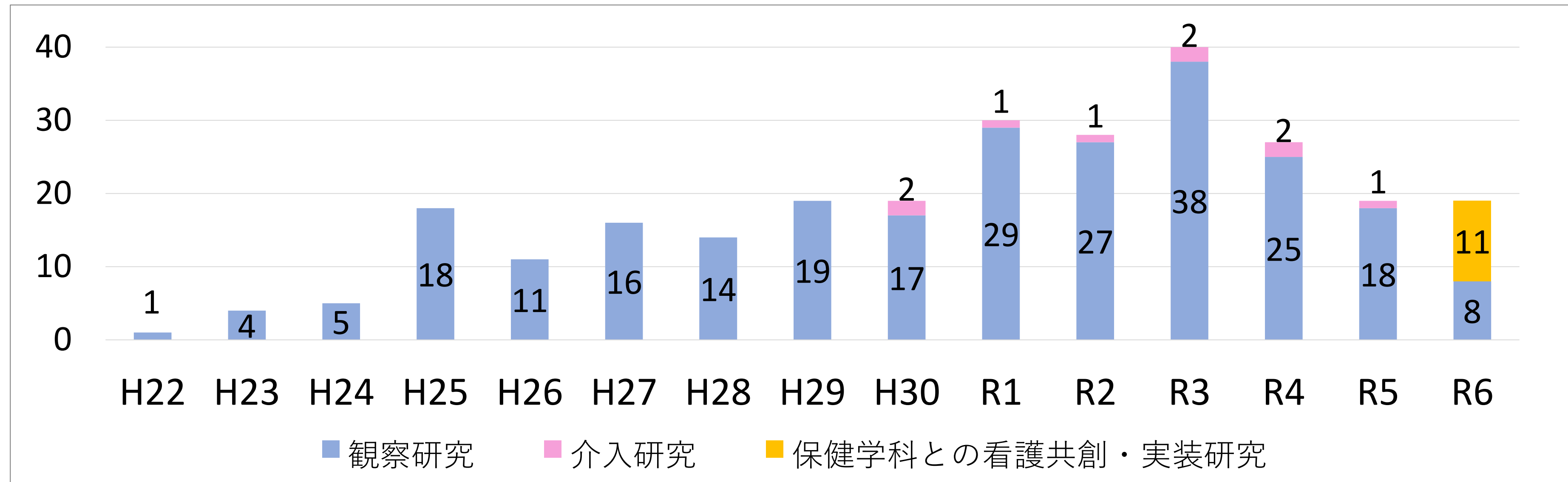
Ⅲ. 成果

1. 九州大学病院看護研究コース 受講者は、教員の支援のもと基礎的な知識（表1）を活用し、研究計画から倫理審査、発表（表2）までを一貫して実践できる人材育成を図り、計50名が実践編まで修了した。修了者を中心に研究活動が活発化し、倫理審査件数も増加した（図3）。

表2. 看護研究コース成果発表会 発表数の年次推移

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	計
件数		14	10	8	11	11	11	10	開催なし	10	7	50

※太字は実践編



受講者の声(一部抜粋)

- ・文献レビュー、クリティークの大切さがわかった
- ・研究的視点をもって看護実践を行えるようになった
- ・統計の基礎、論文を読む際の視点を学ぶことができた
- ・発表で大事なポイントがわかり、活かしていきたい
- ・看護研究のプロセスを詳しく学ぶことができた

図3. 看護研究コース開始前後の倫理審査申請状況の年次推移

2. 九州大学看護共創・実装研究拠点組織への協力 現在11テーマ・19部署が研究に取り組んでいる（表3）。保健学科教員主催の看護研究セミナーへの看護師の参加を積極的に促し、61名が参加し、オンデマンド配信では累計103件のアクセスがあった。

表3. 研究テーマ

1 個人防護具(PPE)着用による熱ストレス低減にむけた指針作成	7 小児造血幹細胞移植術後患者フォローアップ外来(LTFU)における実装研究
2 頭頸部がんを対象とした看護師主導の急性期口腔ケア介入の効果の検討	8 臨床現場と大学の連携による新人看護師の支援プログラムの開発
3 看護師が抱える身体動作に関連したヘルスニーズに対する新たな支援策の検討	9 在宅中心静脈栄養療法施行患者の退院後の実態調査(退院支援)
4 がん・肝移植患者の座位行動低減にむけたウェアラブルデバイスによる介入効果の検証	10 女性生殖器がん術後患者を対象とした身体活動量向上のための複合的介入の検討とその効果の検証
5 口腔がんを対象とした看護師主導の急性期口腔ケア介入の効果の検討	11 LVAD装着患者の体験を基盤とした心理教育プログラムの作成
6 九州大学病院におけるTOLAC(Trial Of Labor After Cesarean section)に関する調査	

3. 臨床看護研究発表会

R5年度より本WGでは臨床看護研究発表会の支援を開始し、各部署の看護研究を発表会までの過程で支援することで、研究能力の向上と質の担保を図っている。令和7年度はWGとして15件を支援し、例年の発表件数を維持するとともに、臨床看護師による主体的な研究活動の活性化に取り組んでいる（図4）。

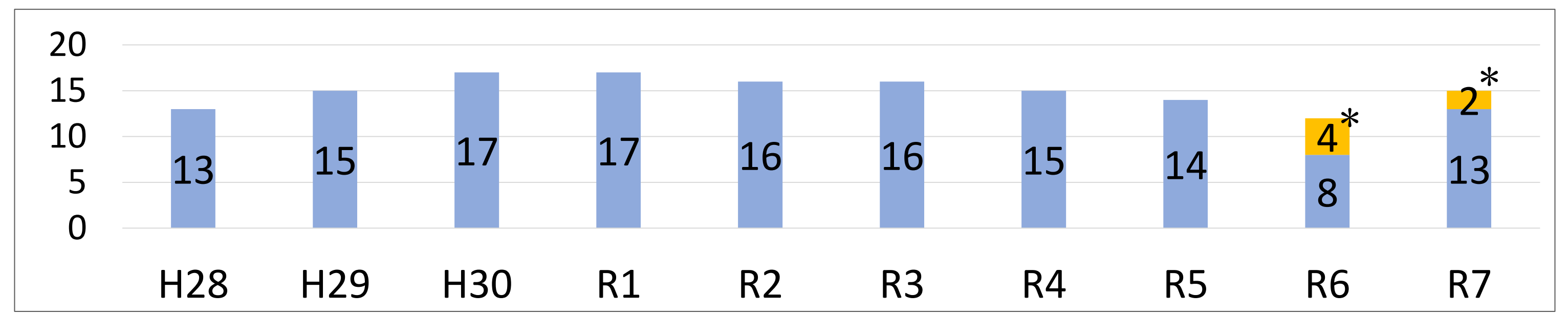


図4. 臨床看護研究発表会 発表数の年次推移

*:九州大学看護共創・実装研究

4. キャリアステーション

研究相談から進学相談まで幅広く対応し、臨床看護師のモチベーション維持・向上にむけた支援を実践した（図5）。これにより、研究活動やキャリア形成に対する意識の高まりがみられ、利用者からは比較的高い満足度を得ている。

利用者の声(一部抜粋)

- ・病棟では聞けない疑問があるため、このような場があると良い
- ・初めての看護研究でも進め方や発表の方法など相談しやすかった
- ・自分では知ることのできない進学に関する情報など教えてもらった
- ・発表で大事なポイントがわかり、活かしていきたい
- ・看護研究のプロセスを詳しく学ぶことができた

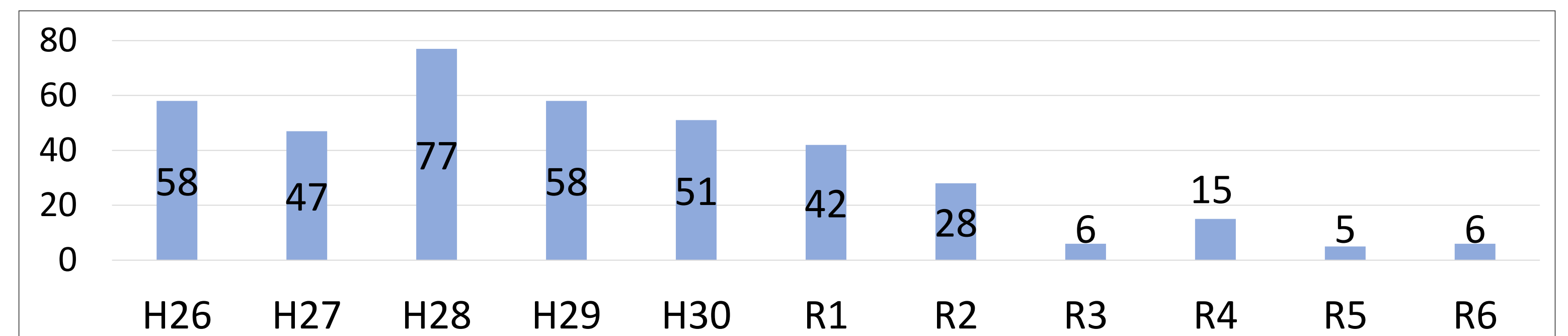
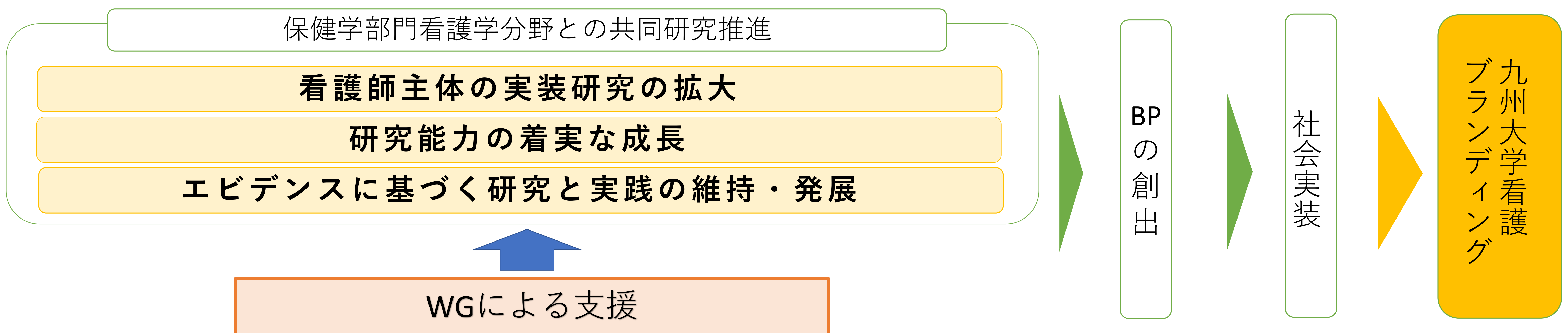


図5. キャリアステーション延べ利用件数の年次推移

Ⅳ. 今後の展望



- 保健学部門看護学分野との連携を強化し、看護師主体の実装研究のさらなる拡大
- 臨床看護研究の支援を強化し、看護職員全体の研究スキルの向上、研究の質の維持